

佳作

Funaijo Bonds Inn

～府内絆の宿～

設計趣旨



大分工業

但馬拓峻

この家の設計趣旨は、現代社会で誰もが感じる「集まって話せる場所の減少」という問題を、解決することを目指している。この家では「誰かがいて話すことのできる部屋」を設け、人々が気軽に立ち寄って会話を楽しめる場を提供する。子ども達は友人と遊び、高齢者は若者とコミュニケーションをとることができる。つまり、この家は「多世代の交流を深めるための家」でもある。

設計においては、最近、若者世代と高齢者のコミュニケーションが減少し

ているという現状を踏まえ、間仕切りを工夫し、多様な交流の機会を増やすことを目指した。例えば、子どもや高齢者、サラリーマンが一緒に過ごせるスペースを設けている。家の中心部はガラス張りで自然光が行き届き、心地よい空間を提供している。2階には宿泊施設があり、5部屋のうち2部屋はトイレと家庭用映画館を完備している。これにより非日常的な体験を提供する。

この家は、大分に必要な、新しいコンセプトの家となっている。

(英語訳)



大分工業

佐藤永樹

